

中・台・日のコロナ対策と 政治的インプリケーション

ナレッジ・フォーラム

JICA緒方研究所

2020.8.25

松田康博

東京大学東洋文化研究所

お題

- 中・台・日のコロナ禍における国内外への政治的リーダーシップをどう評価するか？
- それぞれの国民はどう見ているか？



- 「国家」の観点からコロナ対策とその政治的インプリケーションを議論する

中国の政策と成果： 初動の失敗と抑え込みの成功

- 感染状況(8.24)：感染者8万9451名、死亡4634名(ただし武漢の超過死亡者は推定数万人)←3月半ばに感染拡大を抑え込み、経済活動復活
- 初動の失敗：11月に感染者、12月には隔離開始(隠蔽)、1.6-10武漢市人民代表大会、1.18万家宴、500万人がすでに武漢を離れる→20対策開始(2月になってから1.6に習近平重要指示と報道)、23武漢封鎖、25対策小組成立(李克強組長)、2.7李文亮医師感染して死亡、武漢市の医療崩壊→全国・全世界からの支援
- 海外渡航制限の遅延：1.27になってから団体旅行の海外渡航禁止(数百万人が出国済)→他国・地域による中国からの入国制限を牽制
- 抑え込みの成功：武漢強制封鎖2カ月半→各主要都市封鎖、臨時病院の設置・徹底した隔離
- 強力な強制措置：人権無視の隔離(恐怖の動画流出)、警察・軍の動員
- 国民監視の強化：監視用アプリの義務化(元来の監視社会の強化)
- 経済活動の復活：GDP第2四半期3.2%成長→供給面へのサポート+個人・事業主への給付金ゼロ(失業増大が問題)

中国の国内外へのリーダーシップ： 宣伝と物量により二極分化する影響力

- 習近平政権の正統性劣化：2～3月に政権批判噴出
- 対内宣伝：①習近平のリーダーシップと中国の体制優越性により、抑え込み成功、②党と習近平に感謝すべき（反発を受けて撤回）、③医療関係者、党員・幹部・解放軍はヒーロー→欧米の感染爆発によりようやく政権への不満軽減
- 国際的なイメージダウン：①疫病が中国から拡散、③SARS時と同様の隠蔽・不作為、②1～2月の医療物資買い占め行動（〔3.7〕：マスク20億2,000万個、防護服2,538万着）、③選択的国際協力
- 対外宣伝：①発生源論争、②習近平・中国救世主論、③世界中が中国に感謝（日中関係は大幅に改善）、④中国の政治体制優越論、⑤パンデミックチャンス論、⑤ロシアと協力したディスインフォメーション（ウイルス発生源、EUとイタリア離間）
- マスク外交：3月から5月の間、中国は200カ国・地域に対してマスク706億枚、防護服3億4,000万着、防護ゴーグル1億1,500万個、人工呼吸器9万6,700台、PCR検査試薬2億25,000人分、赤外線式体温測定機4,029万台をほとんど有償輸出→①感謝の強要、②批判を決して許さない、③5G採用要求
- 先進国・周辺国への影響力低下：米国、ファイブアイズ、EU、周辺国等軒並み悪化
- コロナと無関係な問題のリンケージ：中印国境紛争、香港国安法、南シナ海・尖閣・台湾
- 発展途上国への影響力増大？：2年間で20億ドルWHOへ供与声明、アフリカ、中東への影響力拡大→次の段階はワクチン外交

台湾の政策と成果：

「超先手戦略」による完全抑え込み

- 感染状況(8.24)：感染者487名(内部55名)、死亡7名←3月の欧米からの波を抑え込み、4.26以降内部感染ゼロ
- 「超先手戦略」：SARSの教訓から制度・法律整備＋高い中国情報リテラシー
→12.31異変を察知し、中国当局への問い合わせ、WHOへの通報、武漢便の検疫、行政院での調整、1.2行政院が緊急対策本部を設立、3にCDCに対策本部を設置して定例の記者会見を開始し、徹底的な情報開示、13に2名の専門家を湖北省に視察のため派遣、15に新型コロナウイルス感染症を法定感染症に指定(21の感染初確認よりも早い)、20中央感染症対策指揮センターを設置、22武漢行きの団体旅行を禁止、国家安全会議招集(コロナを国家安全保障問題であると位置づけ)
- 徹底した隔離：自宅とホテル借り上げ、罰金と報奨金、(案外緩い)監視システム
- 休校措置：新学期を2-3週間遅らせ、徹底した校内感染防止策準備
- 入境措置：1.26以降中国からの入境を段階的に制限、2.7入境拒否→全世界から拒否へ(パンデミックへの警戒が住民に浸透)
- 経済対策：2月25日には内需型産業の支援・保証金支給として600億台湾元(約2,200億円)の経済対策承認。「三倍クーポン」成功、観光業復活、通常的生活
- マスク供給：25マスク輸出を停止後、政府が製造と流通を一元管理して増産→25日間で台湾は一躍世界第2位のマスク生産拠点到早変わり

台湾の内外へのリーダーシップ： 高支持率と世界的評価

- 支持率上昇：蔡英文政権の支持率は61%と就任以来最高。貿易政策への支持率は97.2%。陳時中衛生福利部長、唐鳳(IT担当大臣)、陳建仁副総統、沈榮津経済部長は政治的スターに→台湾人としての自尊心向上(「私は台湾人であって中国人ではない」史上最高の69%)
- 野党・国民党の支持率低下：中国弁護＋政権批判をした政治家への評価激減→政権は中国との関係悪化を巧妙に利用→民進党政権長期化の見込み増大
- マスク外交：余裕ができた分は対外援助(全て無償)に使われ、5月末までに7,400万枚を世界中に無償で供給→「Taiwan can help!」キャンペーン→WHA参加支持国の増大(中国は反対したことで「悪者」に)
- 「民主体制の成功モデル」：情報開示、政府と国民の信頼関係、緩い監視、但し国民身分証など国民管理の制度的基礎や町内会長の強い機能(＝ポスト権威主義的特徴)
- 対中悪化と対米接近：アザー厚生長官訪台し台湾を絶賛、軍事的緊張が高まる中米国の対台湾支援策増強

日本の政策と成果：政府は準備不足だが現場の奮闘と国民の協力で切り抜け

- 感染状況(8.24)：感染者6万3,281名、死亡1,202名←3月の欧米からの流入で感染拡大・緊急事態宣言、6月後半から第2波
- 初動の準備不足：1.16国内初の感染者(武漢からのツアー客、濃厚接触者は最後までツアーを満喫)、1.28指定感染症に定める、1.29武漢チャーター便検査拒否が発生、1.30感染症対策本部設置、2.16専門家会議初会合(ここまで「日本の対策は正しい」)→2.26イベント自粛要請、2.27臨時休校要請へ転換、3.1ダイヤモンドプリンセス号乗客全員下船、3.13新型コロナ特措法成立、4.7-5.25感染拡大により緊急事態宣言
- 習近平訪日と五輪で入国制限遅延：1.31湖北からの入国制限、2.12浙江省からの入国制限、2.28安倍・楊潔篪会談(3.5習近平訪日延期発表)、3.9中国・韓国からの入国制限、3.24五輪1年延期決定、3.25海外渡航全面制限
- マスク政策：3.15マスク転売禁止、「アベノマスク」の失敗
- 現場の奮闘：高い医療・公共衛生水準(クラスター対策)と低いPCR検査能力
- 強制力なき政策体系：隔離も休業もほとんどが要請(罰金・報奨金なし)→国民は有名人の死亡で理解を深め、自発的に協力
- 経済危機：第2四半期GDP成長率マイナス27.8%、財政再建不可能

日本の内外へのリーダーシップ： 支持率低下と国際的存在感低下

- 支持率低下：支持45%、不支持37%（2月）→支持34%、不支持47%（8月、NHK）
- 給付金方式で政府・与党の不協和音：総理の求心力低下→ポスト安倍プロセスを加速
- 対中関係一時的改善：中国は日本のマスク支援（「山川異域，風月同天」）を高く評価
- 台湾からの失望：①「なぜ日本は対策をとらないのか！？五輪をやる資格などない！」、②「我々には日本を見捨てることができない」
- 欧米からの評価：「奇妙な成功」（「日本は武漢の地獄絵図を他人事と見て、ニューヨークがオーバーシュートしてから慌て始めた」）
- WHAでの存在感？
- 対外支援：「新型コロナウイルス感染症対策途上国支援に関する開発大臣コンタクトグループ会合」→具体的には不明？？？

教訓は何か？

- 「中国モデル」: 制度と価値観が違いすぎて真似られないし真似るべきではない→先進国との関係悪化と途上国への影響力拡大
- 「台湾モデル」: 「国民国家としての理想モデル」であり、日本は真似たいがもう遅い→次のパンデミックのために今後謙虚に学ぶ必要
- 「日本モデル」: 強制力がなく、おそらくどの国・地域も真似られない→日本は強みである医療・公共衛生の水準向上のため地道な対外支援をするべき